

万年筆



- ① 三越ブランド(大正末～昭和初期製)スポイト、外付レバー
- ② アテナ(丸善)(大正末～昭和初期製)スポイト、外付レバー
- ③ シェーファー(米国製)(昭和初期製)スポイト、外付レバー
- ④ パイロット製(昭和30年代製)スポイト、内蔵レバー
- ⑤ ペリカン(ドイツ製)ポンプ方式
- ⑥ モンブラン(ドイツ製)ポンプ方式
- ⑦ シェーファー(米国製)スポイト方式
- ⑧ パーカー(米国製)A: スポイト方式, B: カートリッジポンプ方式, C: カートリッジ方式
- ⑨ パーカー(米国製)毛細管吸引式

ゴム製のスポイトでインクを吸引する。スポイトを押しつぶすのはペン本体の側面にあるレバーを引き起こしてスポイトを押しつぶし、元に戻す時にスポイトが膨らみインクを吸引する(①, ②, ③)。④はレバーが本体の内部に内蔵されており、後ろの赤いレバーが同様の役割をする。

その後ドイツでは⑤、⑥のようなポンプ吸引式になり、本体後部のを振じるとポンプが押され、元に戻す時にインクを吸引する。いずれも本体の一部が透明になっており、ポンプの稼働状態やインクの状態を外部から見える。

アメリカ製のシェーファーは見かけはポンプ式であるが構造はスポイト式で、後部を引出して元に戻すと内蔵するゴムのスポイトが潰されて元に戻りインクを吸引する。

⑧はアメリカ製のパーカーでありこのモデルはスポイト式からカートリッジ式への過渡期の3種類の吸引方法が使える。⑧Aはスポイト式である。⑧Bと⑧Cはカートリッジ式であるがBはポンプでありCはカートリッジである。

⑨はアメリカ製のパーカーで、全く新たな毛細管を用いた吸引方法である。長く使うと吸引量が減ってくる欠点があり、カートリッジ式へと移行した。